

IMF サーベイ

トルコ経済

トルコの成長と雇用支援、 経済の安定性強化のための改革に期待

IMF サーベイ・オンライン
2012年5月11日



トルコ・イスタンブール：過去10年でトルコ経済は大きく成長した。
(写真：Newscom)

- クリスティーナ・ラガルド氏、IMF 専務理事として世界・欧州の主要経済国を初訪問
- 持続的成長の実現、流入する「ホットマネー」への依存の軽減が、トルコの政策課題
- トルコの発展への女性への参画、「スマート・エコノミクス」

欧州と中東の交差点に位置するトルコは、これまで10年に渡り高い成長を遂げるなど、世界経済のキープレーヤーとなっている。国際通貨基金（IMF）の専務理事として同国を初めて訪れたクリスティーナ・ラガルド氏は、同国の今後について、安定性および成長を維持し雇用を拡大すべく、経済改革に引き続き取り組むことが重要だと述べた。

トルコ訪問は、ブラジル、中国、インド、ロシア、南アフリカなどの他の主要新興市場国も含めたラガルド氏のIMF加盟国訪問の一環で実現した。

新興市場国の中でも最大規模のトルコの存在や発言権は、IMFや先進ならびに新興市場国・地域からなる20カ国グループにおいて高まりつつある。

ラガルド氏は「トルコは、これまで10年間で、一人当たりの国民所得が2倍以上となり貧困削減が進むなど、目覚ましい成長を遂げた」と述べる一方で、「しかし、巨額の経常収支赤字を短期的な資本フローで賄っており、脆弱性が生じている」と指摘した。

「このことから、今後もトルコが安定性と成長を維持するためには、マクロ経済、財政および構造改革を適切に組み合わせ、引き続き実施することが重要である」

段階的かつ安定的に：今後のカギに

ラガルド氏は、2年に及んだ急激な成長により、経常収支赤字が拡大、同国経済は投資家のリスク選好度の変化にこれまで以上に脆弱となったが、同国は一段と穏やかな成長過程に入ったと指摘した。

ラガルド氏は、2012年のトルコの成長率は2.3%となるとのIMFの見通しを明らかにした。

さらに同氏は、成長の減速は、インフレの低下と経常赤字の削減に寄与すると考えられるなど利点があるとの見解を示した。同国の経常赤字は現在対GDP比約10%となっており、脆弱性の問題を引き起こしている。

同国の低い貯蓄率を短期的な性質の資本フローで賄っていることで、トルコは国際資本市場の変動にさらされている。

IMF は、2012 年のトルコの経常収支は、エネルギー価格が今年上昇するとの見通しを加味しても、対 GDP 比で約 1%改善すると予測している。

ラガルド氏はトルコの輸出と海外投資の拡大には、マクロ経済の安定性が不可欠だと述べた。さらに、ビジネス環境の改善や労働市場改革、世界市場のニーズの変化により良く対応する教育システムの構築など、構造改革が重要である。

トルコの経済発展における女性の役割

ラガルド氏は、政府関係者や投資家との協議に加え、トルコのビジネス、学界、NGO やメディアの女性リーダー・グループとも会合を持った。

これは、同氏が現在進めている様々な見解を取り入れるための取り組みの一環である。同氏は、国際・国内双方の多様な聴衆の意見をもとに、人々が抱える様々な課題やニーズへの理解を深めたいとしている。

ラガルド氏は、国の発展への女性の参画は経済的・社会的進歩のカギだと述べた。なかでも、労働力への女性の参加の向上は、トルコに大きな利益をもたらすだろうと述べた。

ラガルド氏は、イスタンブールで行われたトルコの女性リーダーとの会合のなかで「女性のエンパワーメントと発展という好循環が存在するが、これこそスマート・エコノミクスである」と述べた。